

徳島県病院事業経営計画

～安心医療・とくしまを支える新県立病院プラン～

素案の概要

病 院 局

平成28年4月18日
県立病院を良くする会

県立病院を取り巻く環境と現状

総合メディカルゾーンによる

機能分担と連携

- 小児
- NICU
- 医師の育成
- 徳島がん対策センター



中央

本県医療の
中核拠点

高度急性期病院
フルカバーの救命救急
本県災害医療の要
実践教育病院

鳴門病院との

連携

- 材料の共同交渉
- 災害医療連携
- 県立病院学会

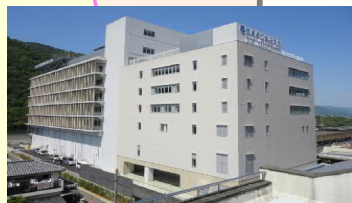


拠点機能
整備

三好

四国中央部
の拠点

救命救急 西の守り
フルセットのがん医療
地域医療支援病院



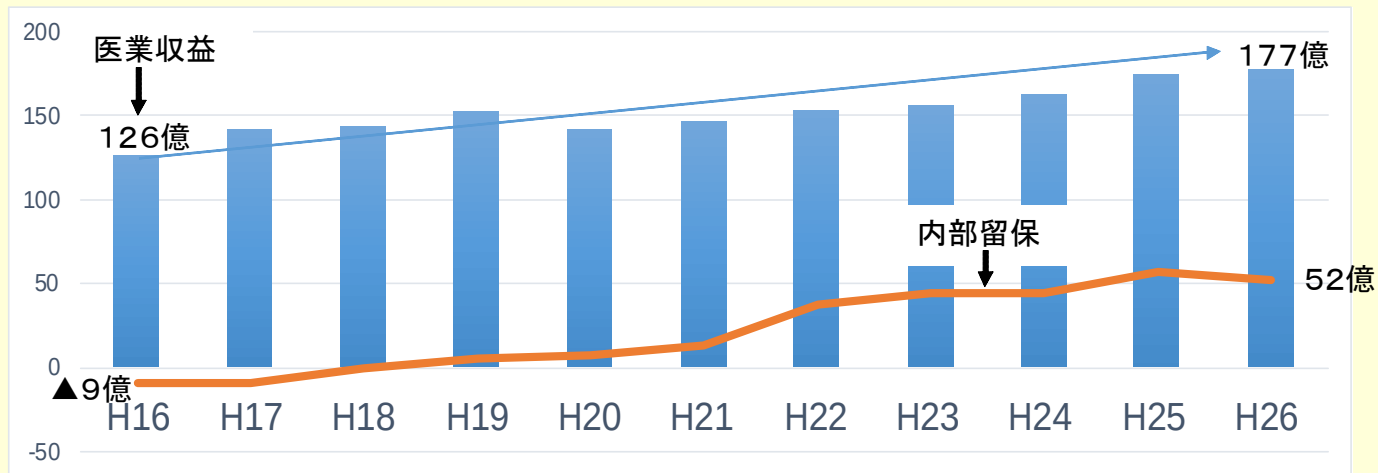
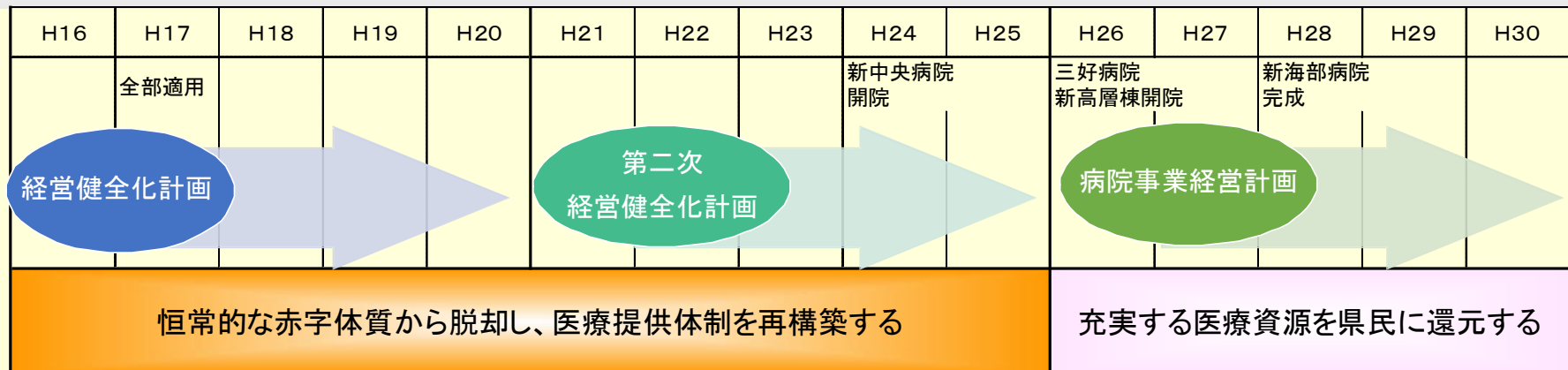
先端災害医療
の拠点

海部

巨大地震を迎え撃つ
前線基地
総合診療医の
育成道場



病院事業全体の経営



※H26年度の内部留保金額は旧会計ベース

★単年度純損益の推移(単位: 億円)

H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
▲ 20.1	▲ 1.9	3.0	4.2	1.2	3.4	5.6	1.9	▲ 6.3	▲ 2.9	▲ 14.6

医業収益の増加



赤字体質から脱却



改築事業に伴う費用増



再び赤字基調

環境変化と現状分析

機会

- 地域枠学生が臨床研修医に
- 医療介護総合確保基金
- 海部・那賀モデル
- 医療のICT化

強み

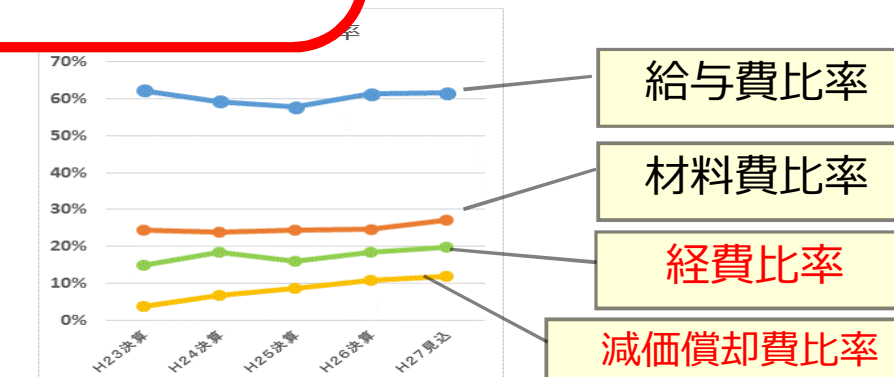
- 中央病院の高度急性期化
- ドクターヘリによる患者搬送
- 初期臨床研修医の確保
- 2病院・1埠頭 + MZ
- 資金繰りは良好

脅威

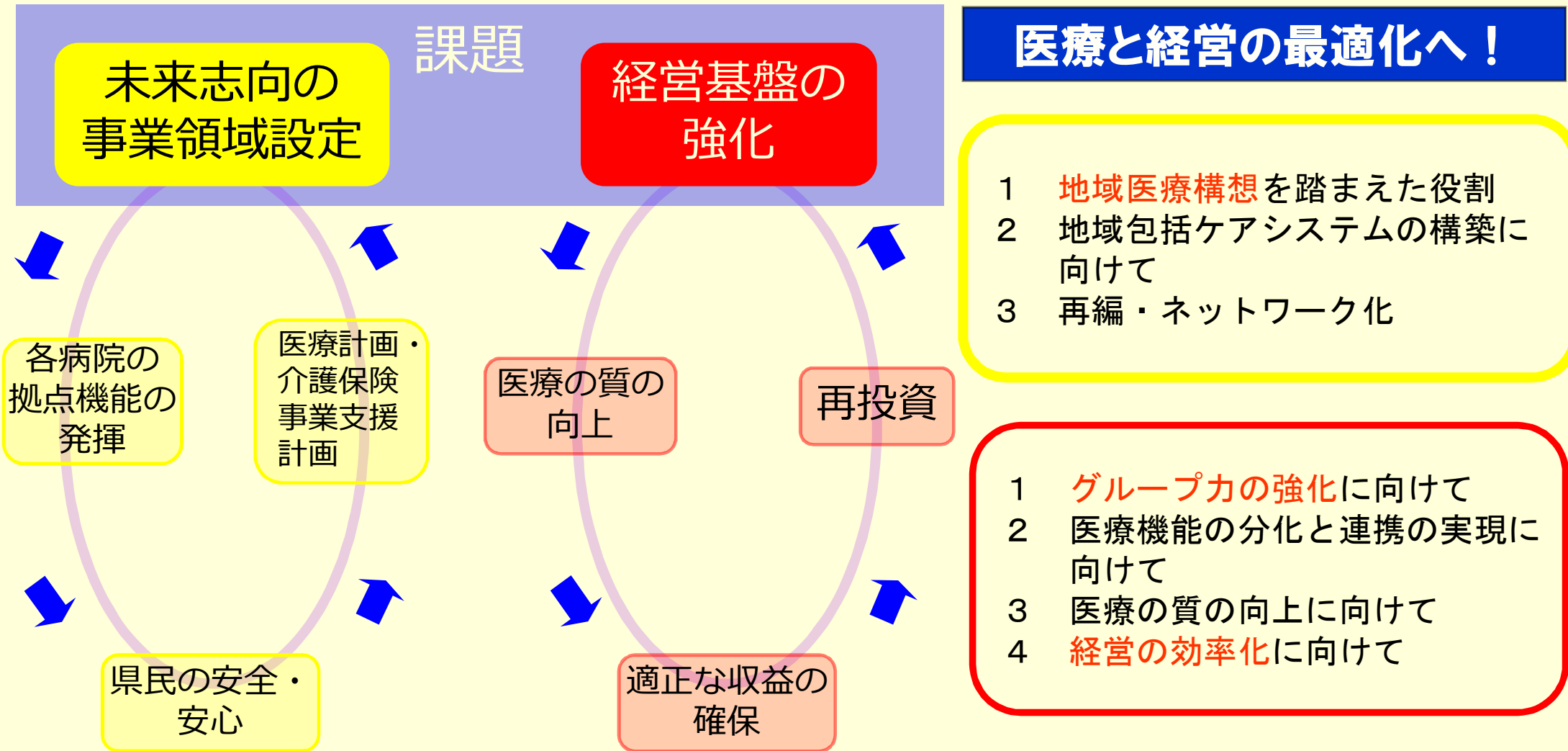
- 地域医療構想
- 新公立病院改革ガイドライン
・ 経営の効率化
・ 再編・ネットワーク化
・ 経営形態の見直し
・ 地域医療構想を踏まえた役割の明確化
- 診療報酬マイナス改定
- 消費税率アップ

環境変化に対応しつつ、
使命を果たすための指針
新経営計画策定（H28～H32）
県立病院の新改革プランとする

弱み

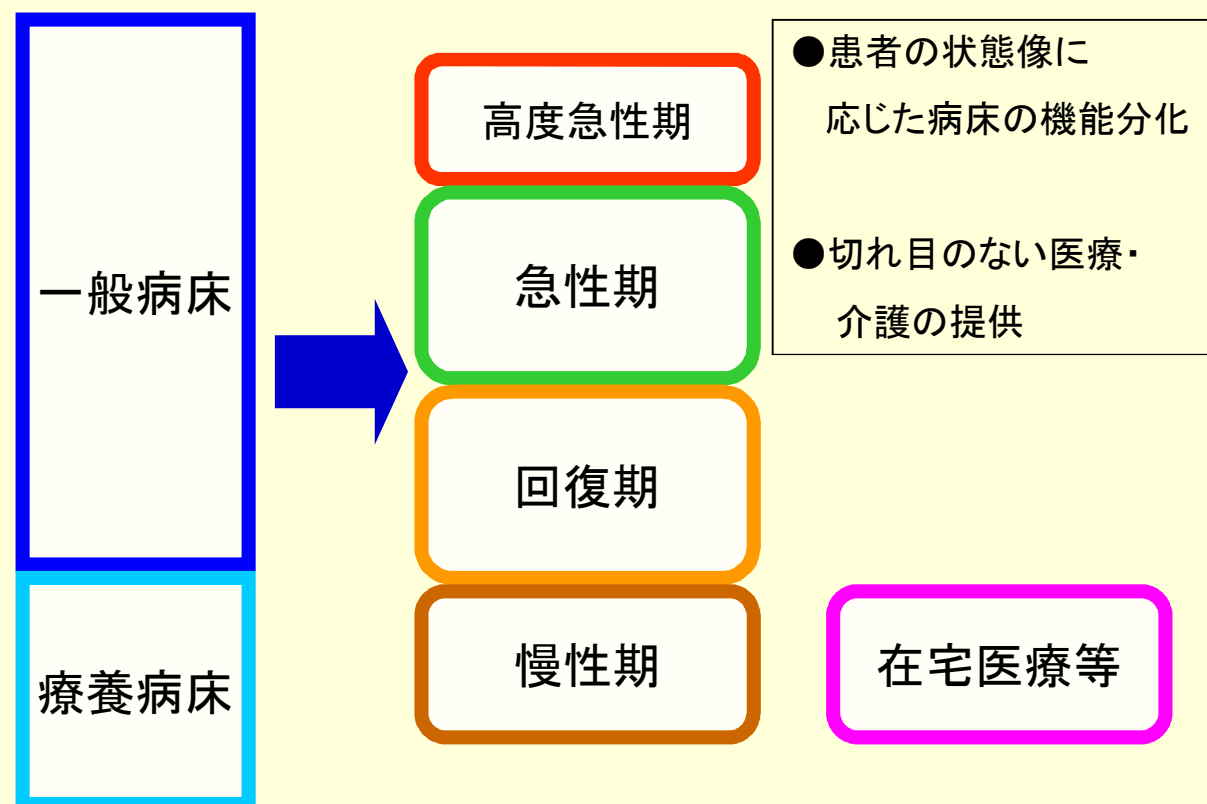
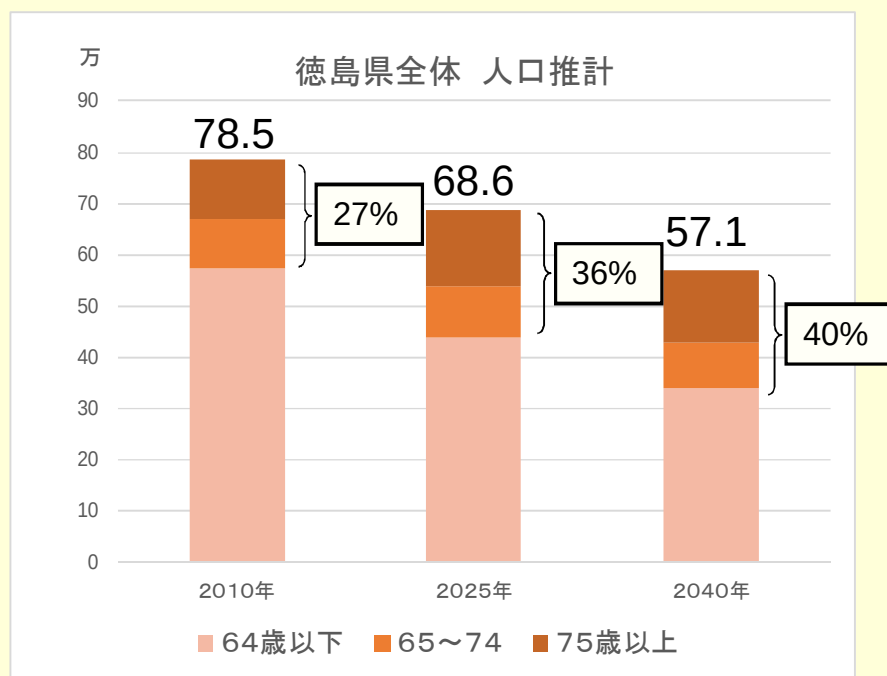


今後の経営課題



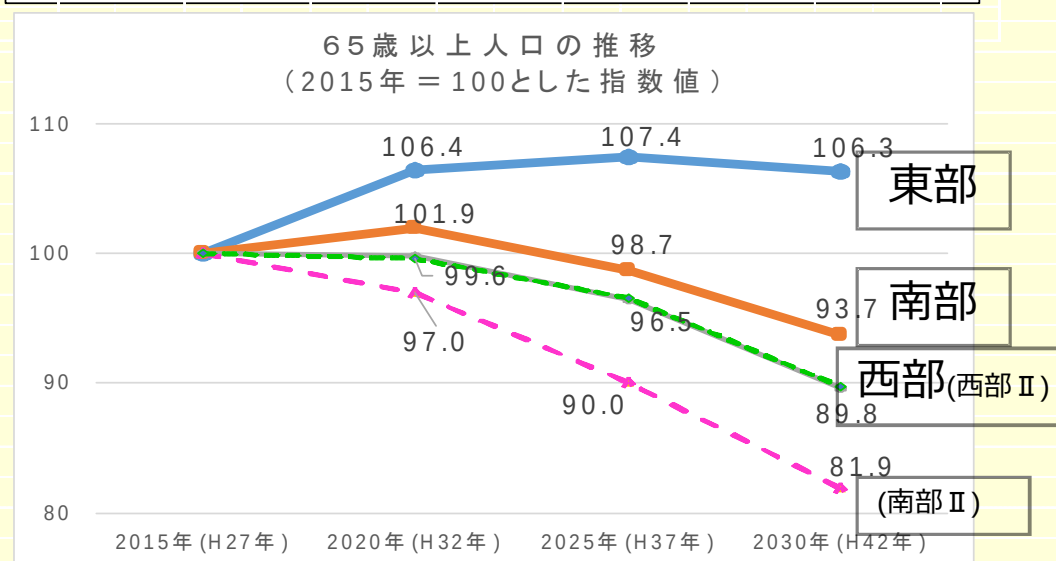
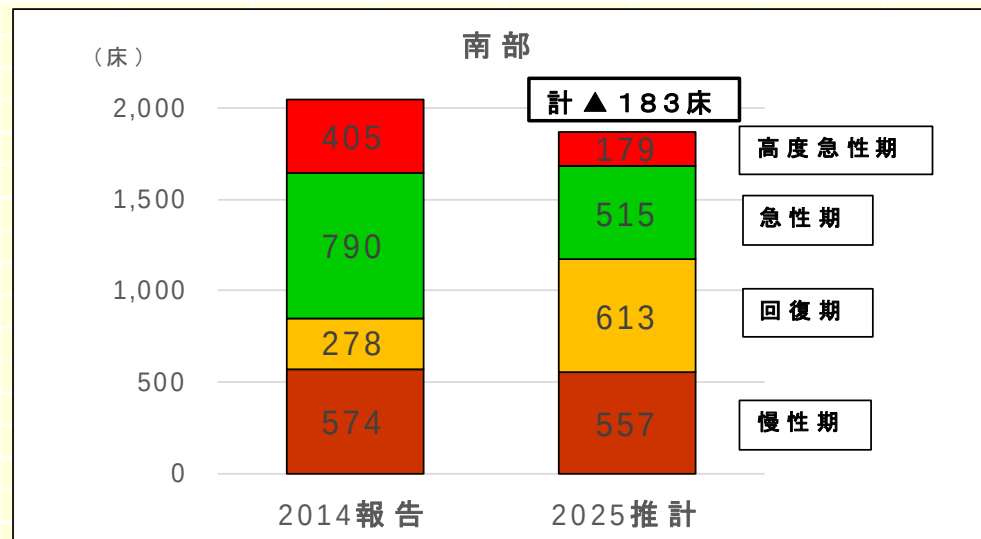
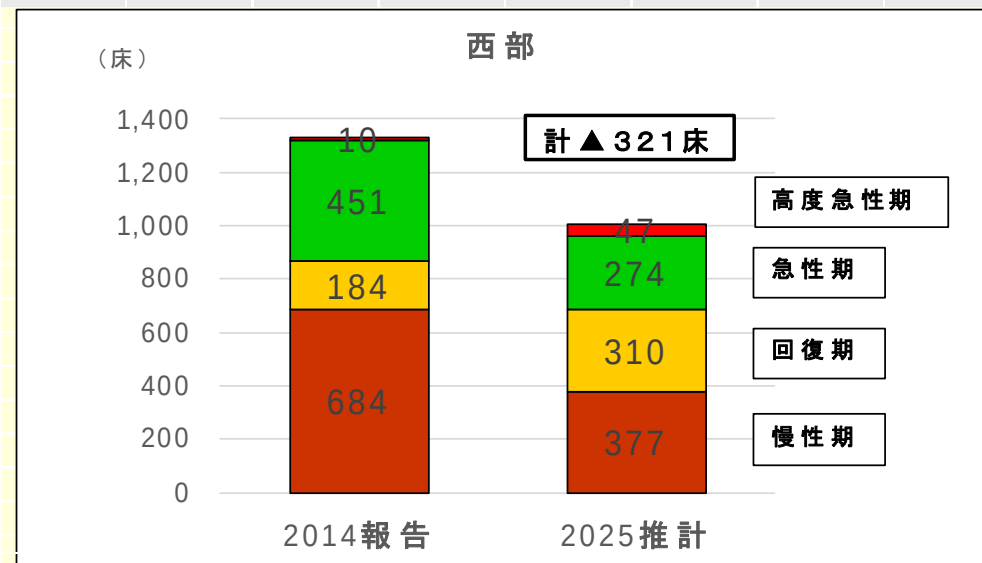
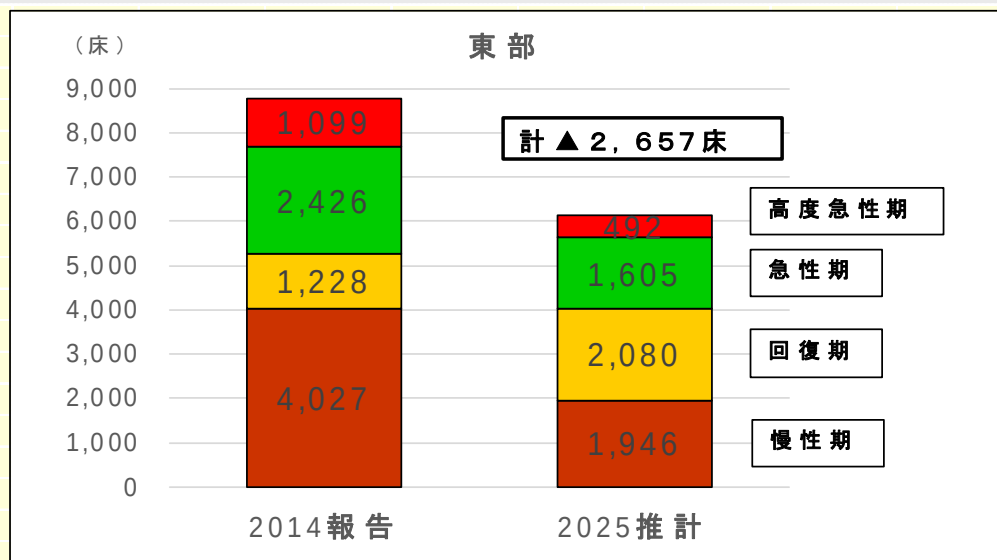
I 未来志向の事業領域設定 ～地域医療構想とは～

2025年の「医療・介護サービスの提供体制」の在り方



「地域医療構想」とは地域にふさわしい「バランスの取れた医療機能の分化と連携」を推進するためのビジョン

I 未来志向の事業領域設定 ～推計必要病床数～



I 未来志向の事業領域設定

～2025年に向けた将来像～

1 地域医療構想を踏まえた役割

	一般病床の機能		
	2014 (H26)	➡	2025 (H37) の目指す姿
中央	本県医療の中核拠点として 高度急性期機能	➡	高度急性期機能
三好	救命救急センターとして 高度急性期機能 急性期機能	➡	高度急性期機能 急性期機能 回復期機能 一部 転換
海部	南部Ⅱの2次救急病院として 急性期機能	➡	急性期機能 回復期機能 一部 転換

2 地域包括ケアシステムの構築に向けて果たすべき役割

中央	三好 海部
●関係機関との連携を図り、患者の早期在宅復帰促進 ●在宅医療実施機関への支援	●リハビリテーション機能の発揮 ●関係機関と連携の下、在宅増悪時の受け入れや訪問診療実施

I 未来志向の事業領域設定

～再編・ネットワーク化～

西部

- 公立3病院間の「地域医療構想を踏まえた連携の在り方」について協議の場を設置



MZ本部

- 「医療人材の確保と育成」
「医療情報の連携」
「患者利用環境整備」
の更なる連携・効果的な機能分担



南部

- 「地域医療研究センター」整備による医師派遣拠点化
- 海部・那賀地域公立医療機関による一体的な医療提供体制



再編ネットワークの推進にあたり

「地域医療連携推進法人」制度の活用を検討

- 医療法の改正により創設
- 非営利法人が参加して法人を構成し、
統一的な方針の下、機能分担・業務連携を推進

Ⅱ 経営基盤の強化

グループ力の強化

一体的な医療提供体制の構築

○医師の確保と指導医・専門医の育成

- 県立病院間で医師のローテーション勤務、3病院全体でキャリア

形成支援

- 中央診療部門医師の確保・育成

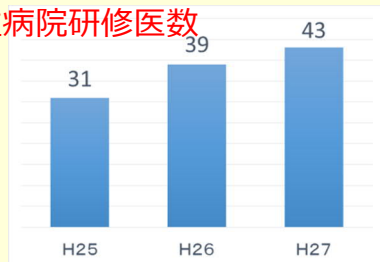
麻酔科医

病理医

放射線科医

○臨床研修の充実

県立病院研修医数



H32
目標

55名

○電子カルテシステムの統一

H30
目標

○医薬品、診療材料等の共同購入

- 県立3病院、鳴門病院、徳島大学病院

医薬品採用品目数

H26
実績

1,869品目

H30
目標

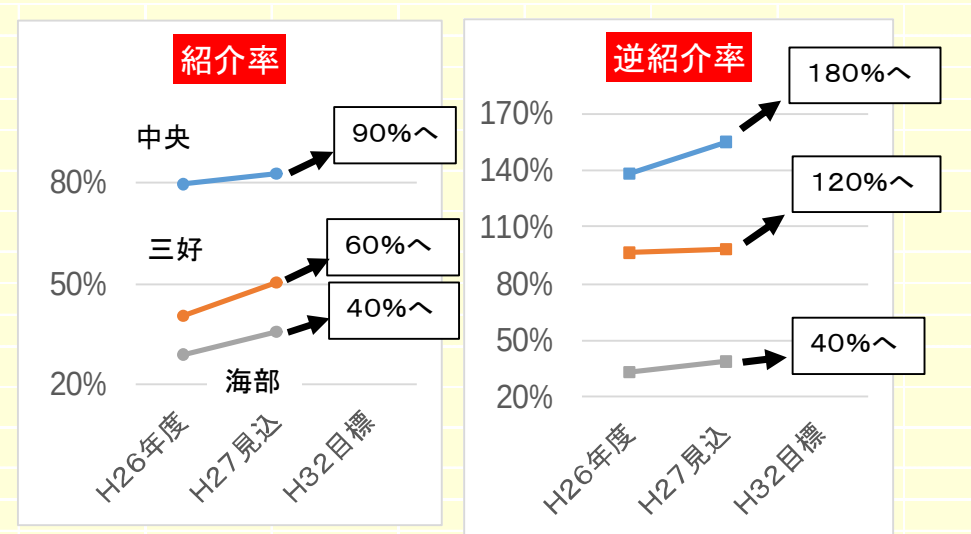
1,000品目以下

医療機能の分化と連携の実現

地域における効率的かつ
質の高い医療提供体制へ

○地域医療連携の充実

○地域医療機関・介護施設等に対する支援の充実



- 感染症対策・緩和ケアなどの情報発信、積極的な在宅医療支援

○ホスピタルカーの運行

救命率の向上

- 地域中核医療機関からの要請により

各科専門医師が同乗し、中央病院まで搬送



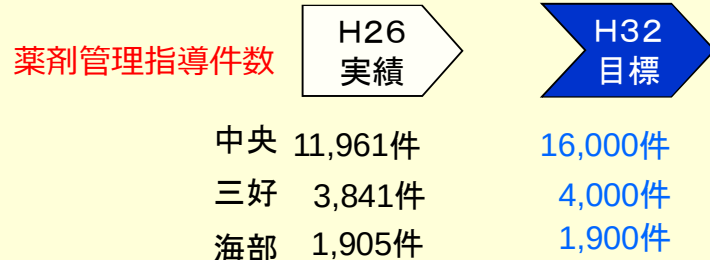
Ⅱ 経営基盤の強化

医療の質の向上

治療成果・安全性・患者満足度
などの向上

○チーム医療の推進

- 医療スタッフが互いに連携・補完し、患者の状態に的確に対応



○医療安全対策の推進

○快適な病院利用環境の整備

総合メディカルゾーンの駐車場の一体的な整備



- メディカルストリートの整備
- 駐車場の共同利用
- 路線バスの構内乗り入れ

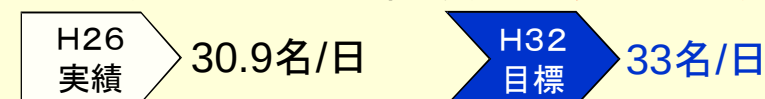
経営の効率化

経常収支の黒字化に向けて

○収入確保の強化

- 医師の確保と育成

- 中央 高度急性期機能の発揮 更なる新規入院患者数の増加

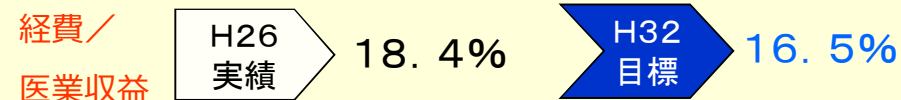


○費用削減の強化

- ジェネリック薬品の採用拡大



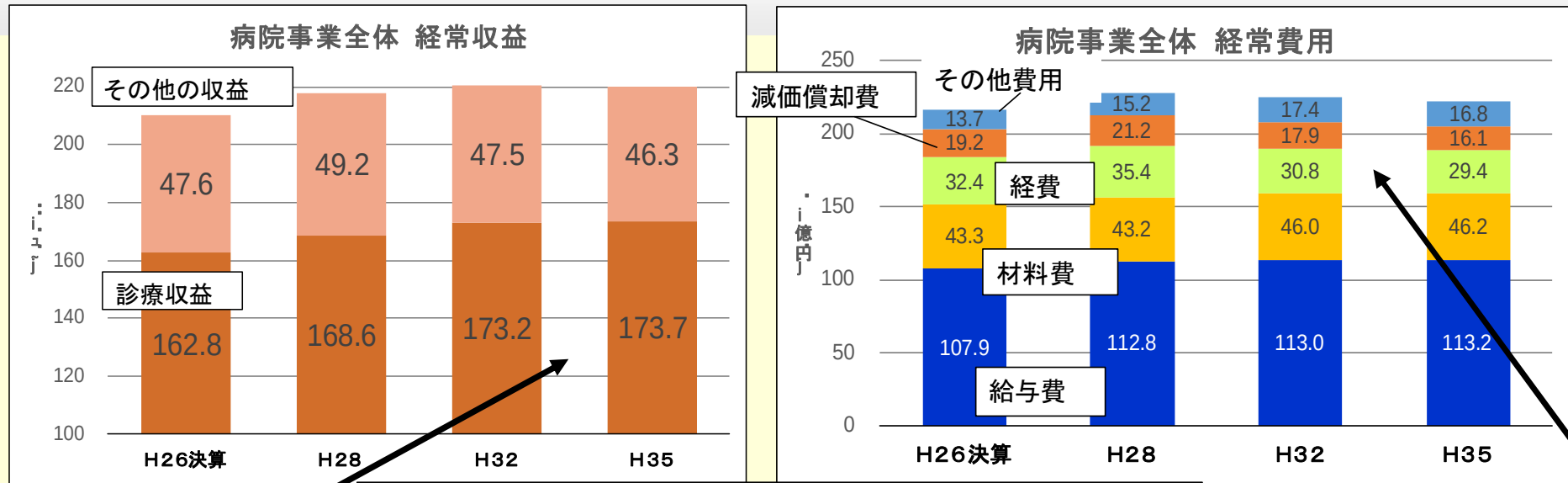
- 委託契約における長期継続契約の推進、スケールメリットを活かした一括契約への変更



○事務部門のスリム化と強化

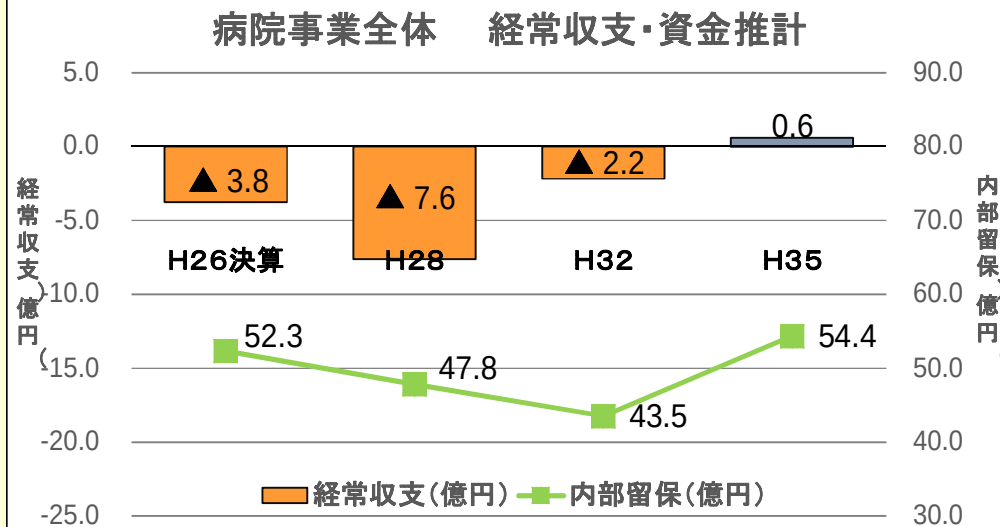
- 改築事業等の進展による体制縮小
- 本局・病院間の業務配分見直し
- 医事・医療情報部門等への専門性の高い職員の採用

収支計画



中央病院による
診療収益増

※経常収支は、新会計基準により計上が必要となった過去分の退職給付引当金を除いて算出(年間約2.2億円)



全体での
経費の削減

目標

H35年度の黒字化

内部留保
現行水準確保